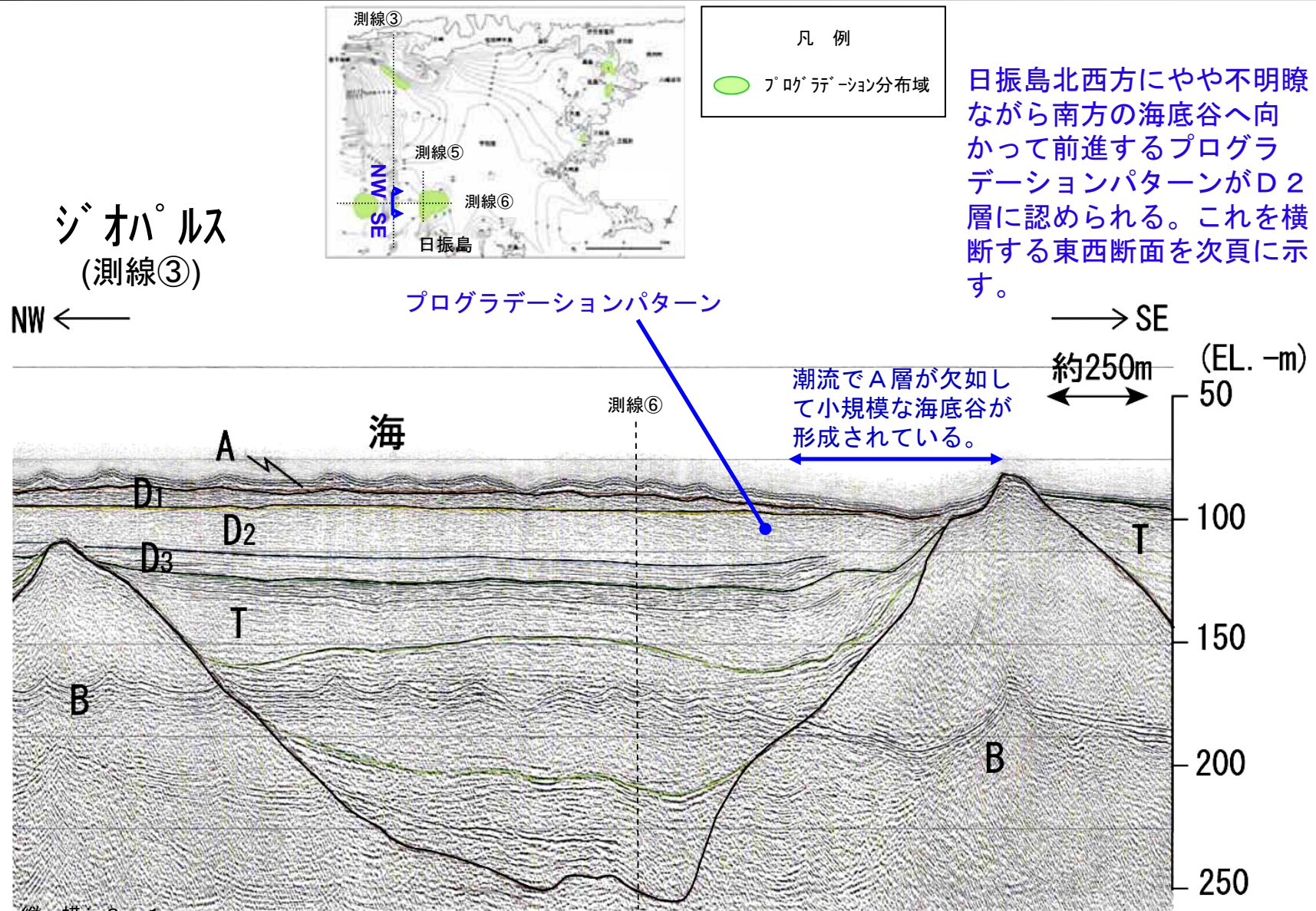
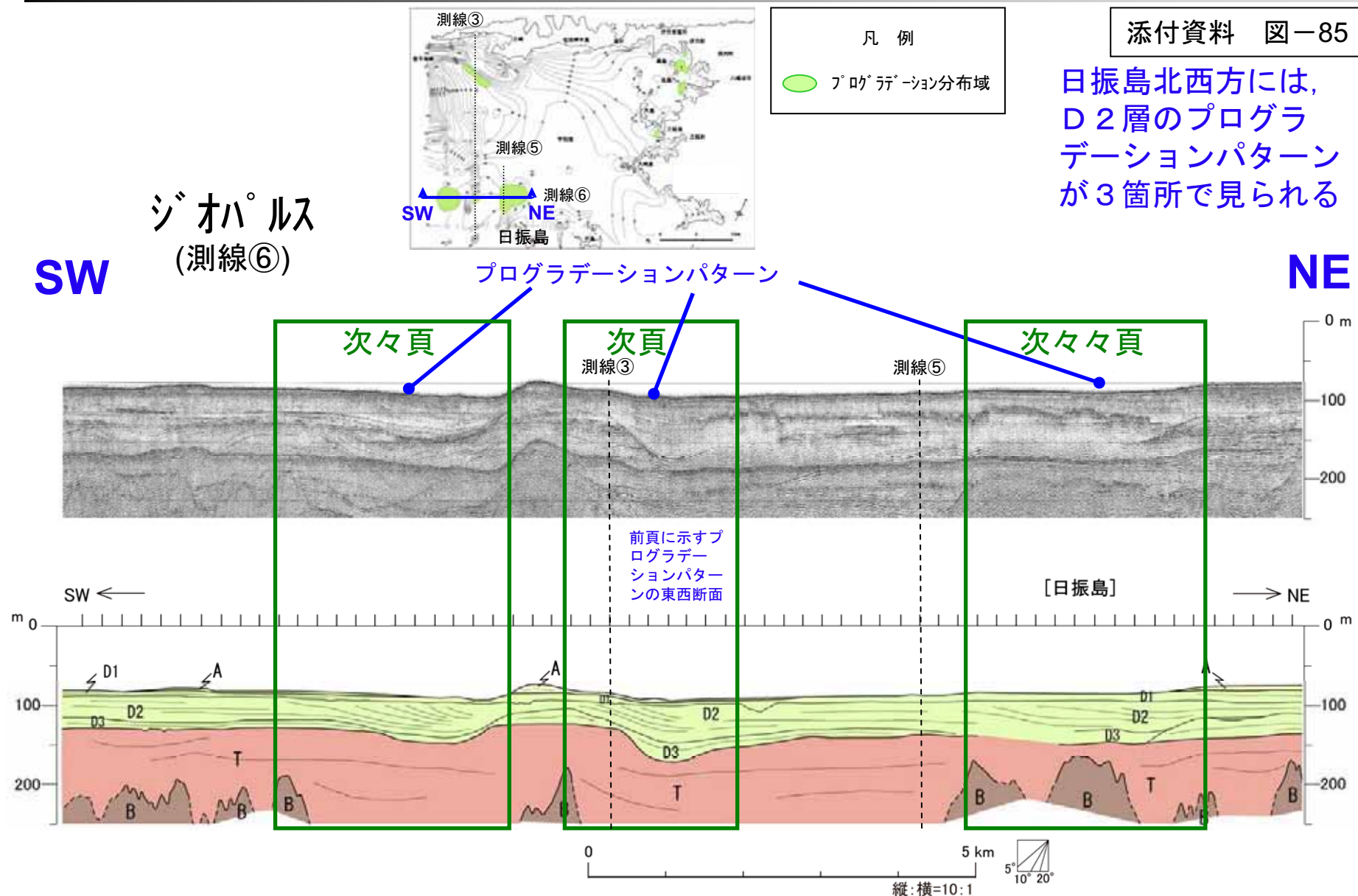


III 4. 5 沖合いの海底地質断面図(三崎南方断面拡大②)

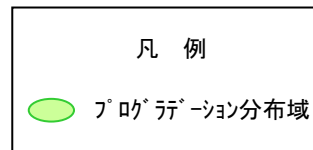
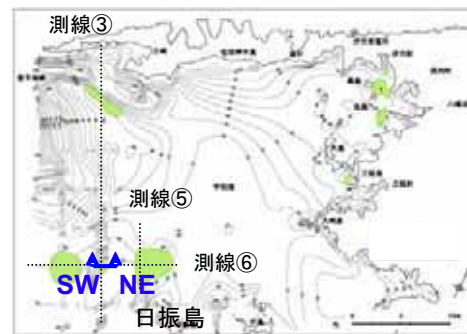


III 4. 6 沖合いの海底地質断面図(日振島北方東西断面)

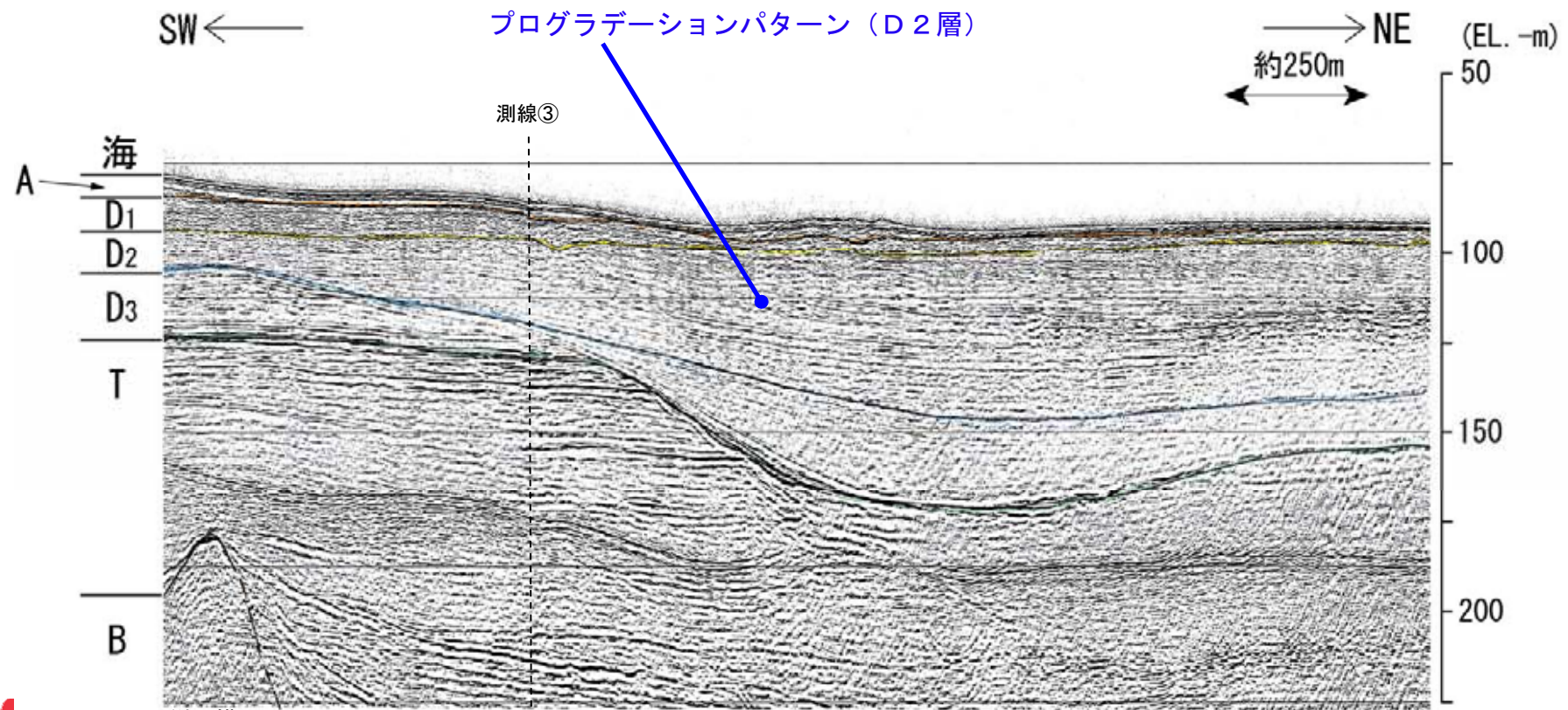


III 4. 7 沖合いの海底地質断面図 (日振島北方東西断面拡大①)

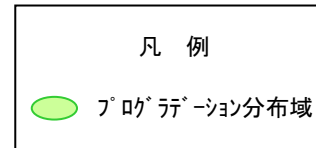
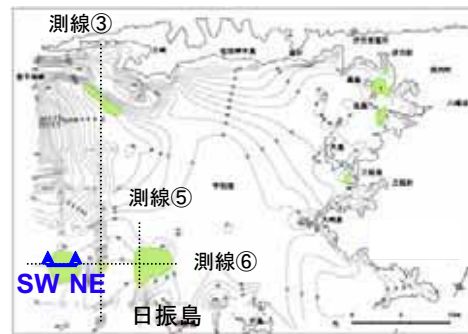
ジオハルス
(測線⑥)



D 3 層上面の凹みに
向かって前進するプ
ログラデーションパ
ターンがD 2 層に見
られる。



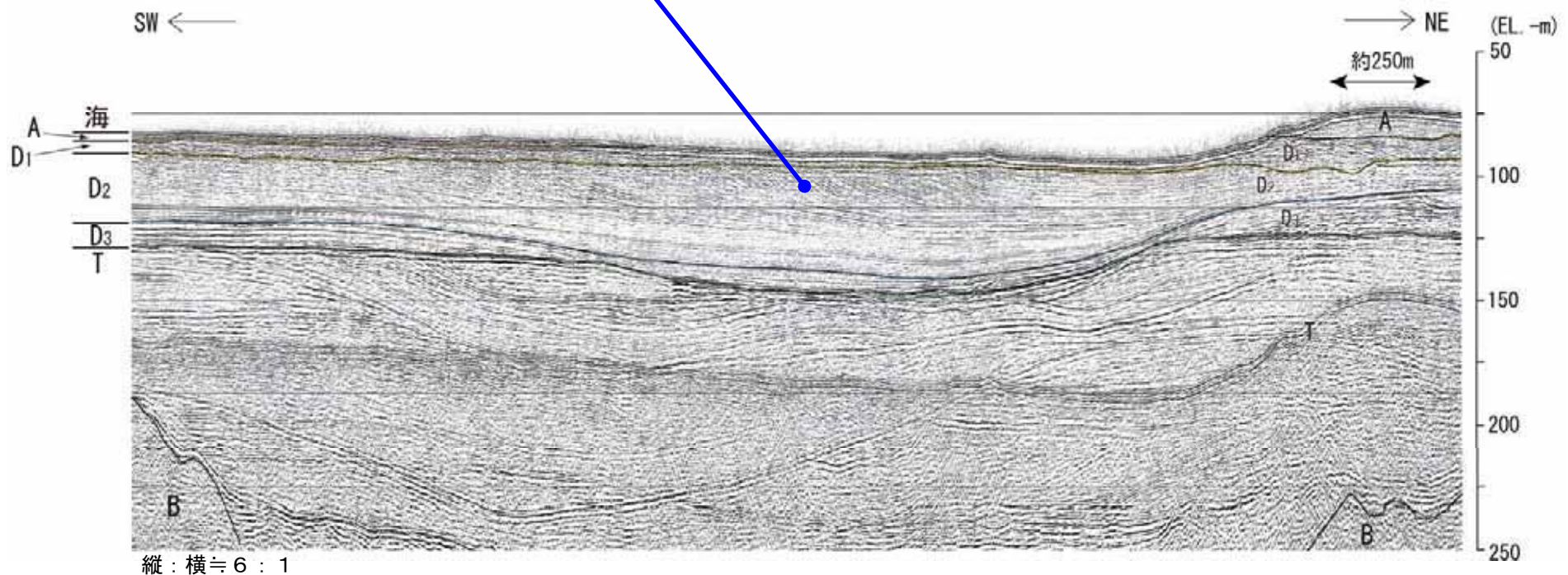
III 4. 8 沖合いの海底地質断面図(日振島北方東西断面拡大②)



D 3 層上面の凹みに
向かって前進するプ
ログラデーションパ
ターンがD 2 層に見
られる。

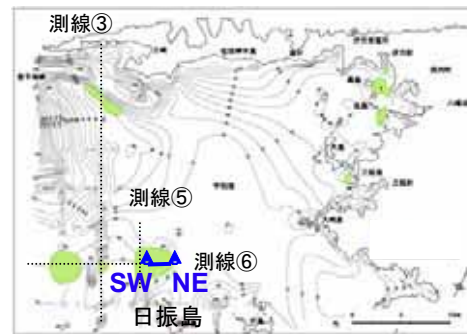
ジオパルス
(測線⑥)

プログラデーションパターン



III 4. 9 沖合いの海底地質断面図 (日振島北方東西断面拡大③)

ジオパルス
(測線⑥)

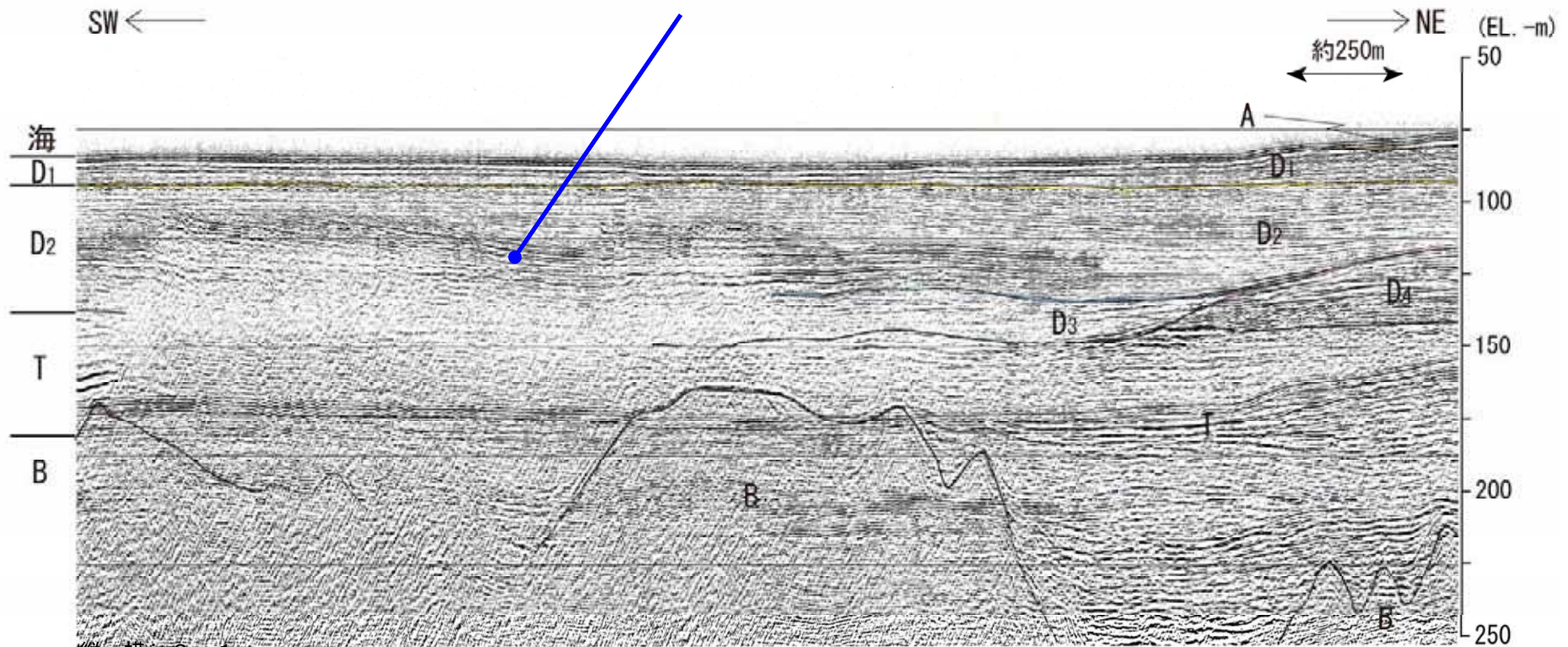


凡 例

プログラデーション分布域

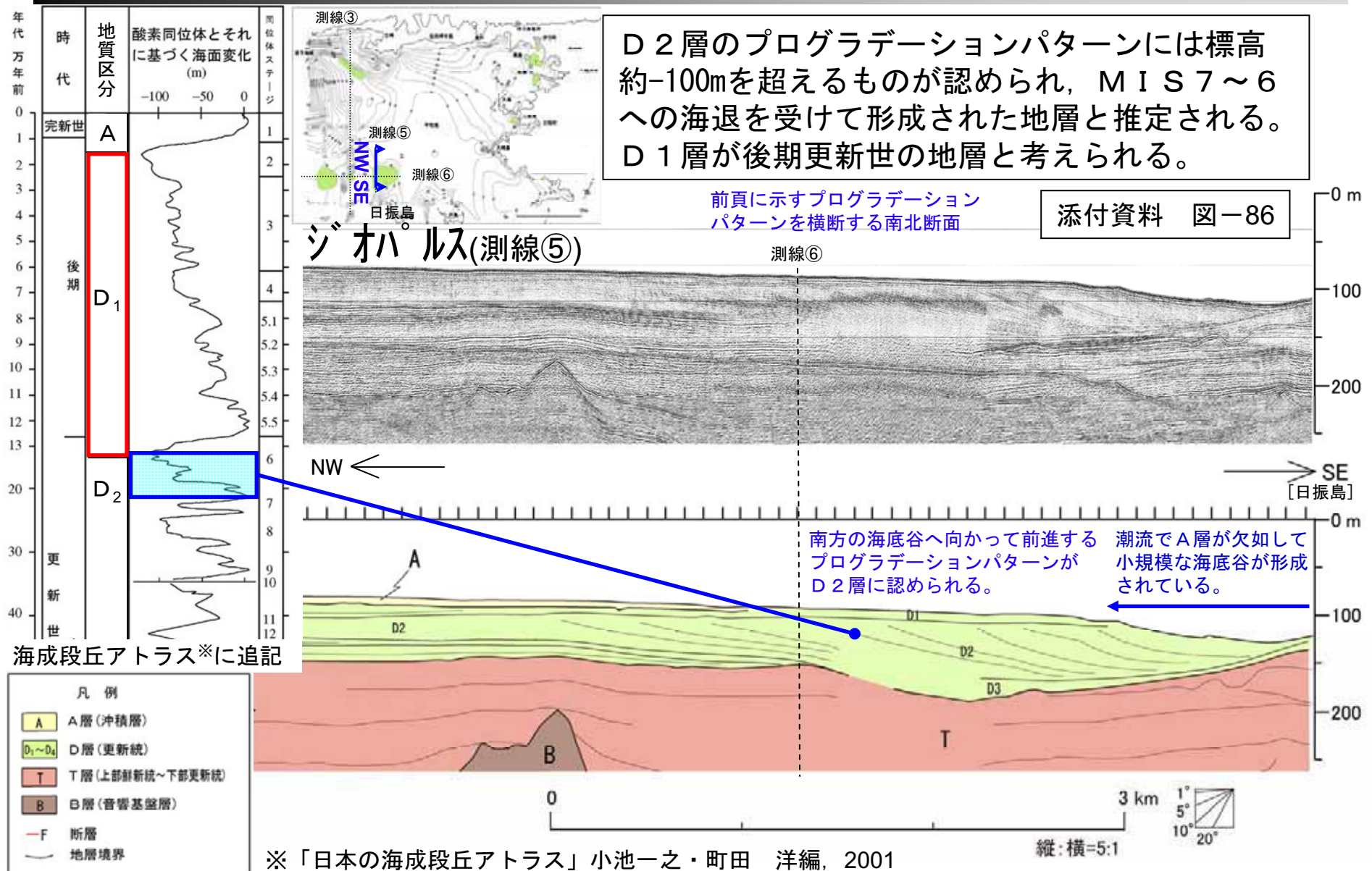
D 3 層上面の凹みに
向かって前進するプ
ログラデーションパ
ターンが D 2 層に見
られる。

プログラデーションパターン



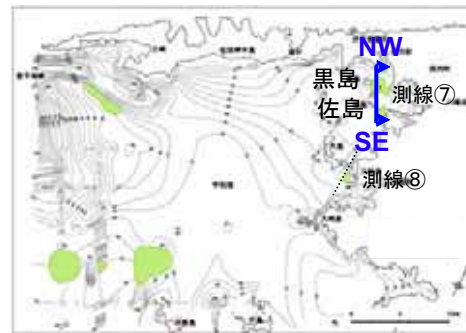
縦：横＝6：1

III 4. 10 沖合いの海底地質断面図(日振島北方南北断面)



III 4. 11 沿岸部の海底地質断面図(黒島-佐島東方断面)

ジオハルス
(測線⑦)

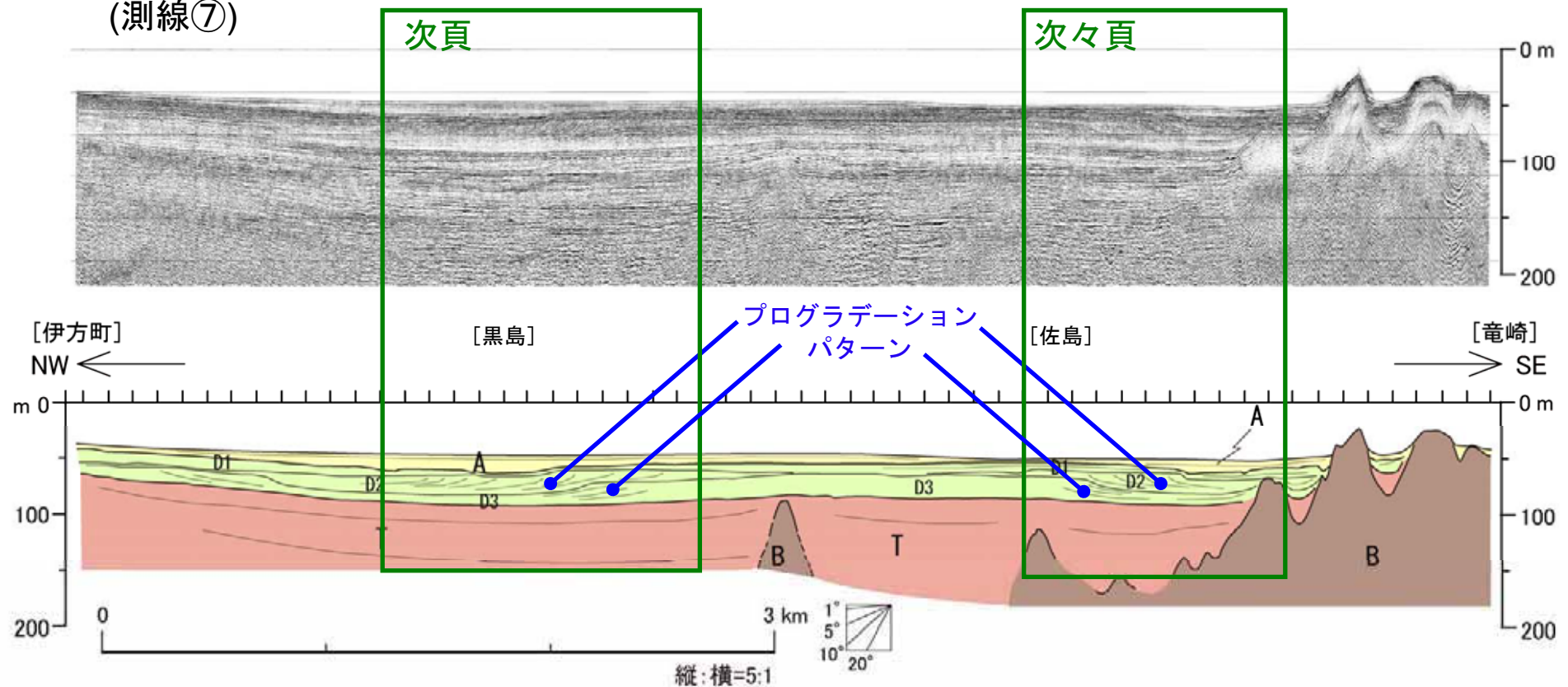


凡 例

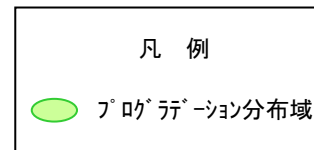
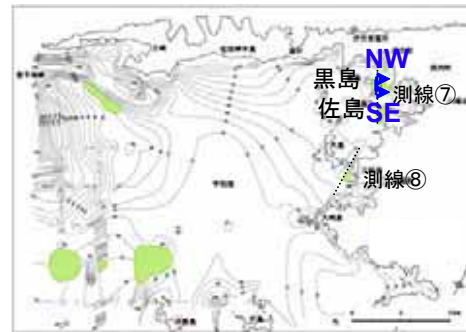
○ プログラデーション分布域

添付資料 図-87

黒島東方および佐島東方の同一地点に累重するD2層, D3層の各々にプログラデーションパターンが認められる。

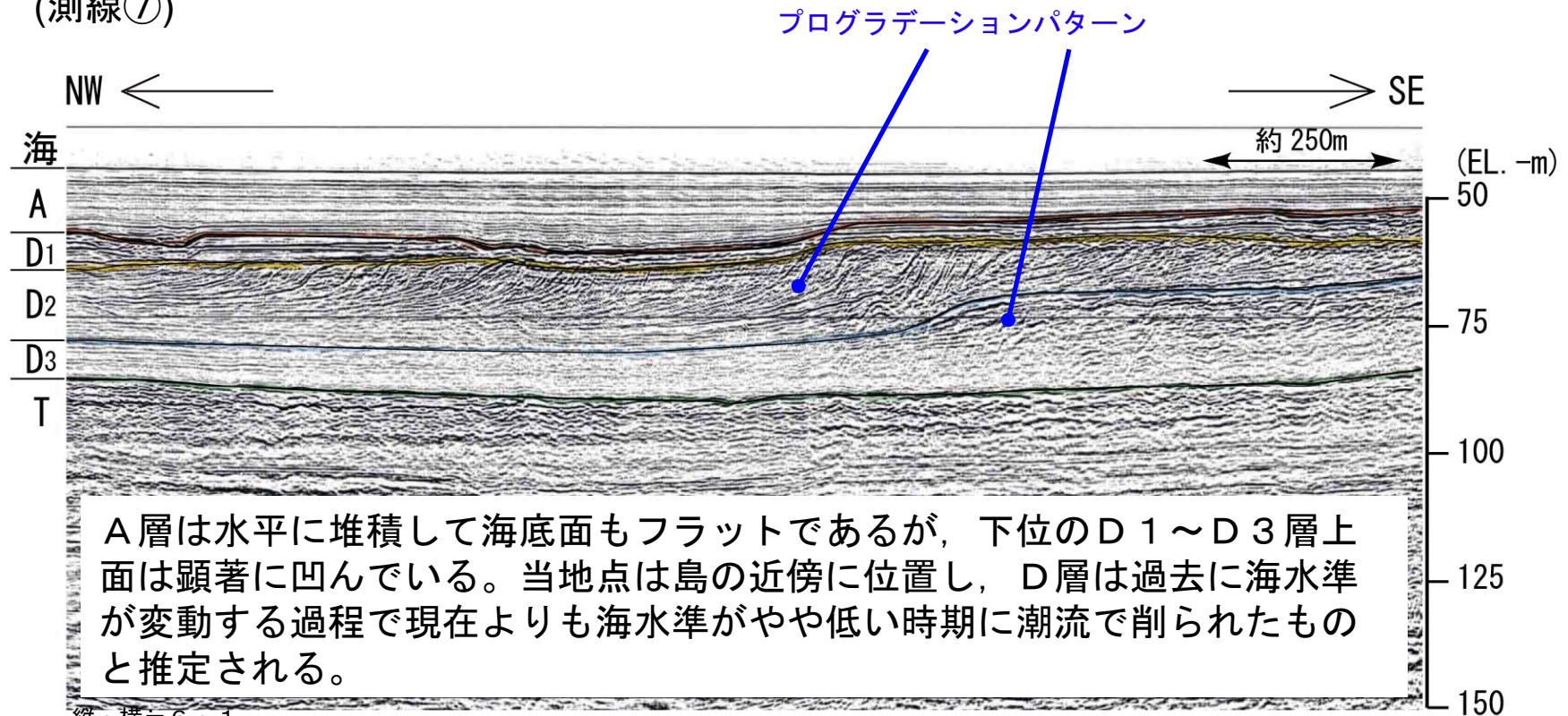


III 4. 12 沿岸部の海底地質断面図 (黒島東方断面拡大)



D 1 層, D 2 層, D 3 層の上面に凹みが認められ, 凹みに向かって前進するプログレーションパターンが見られる。

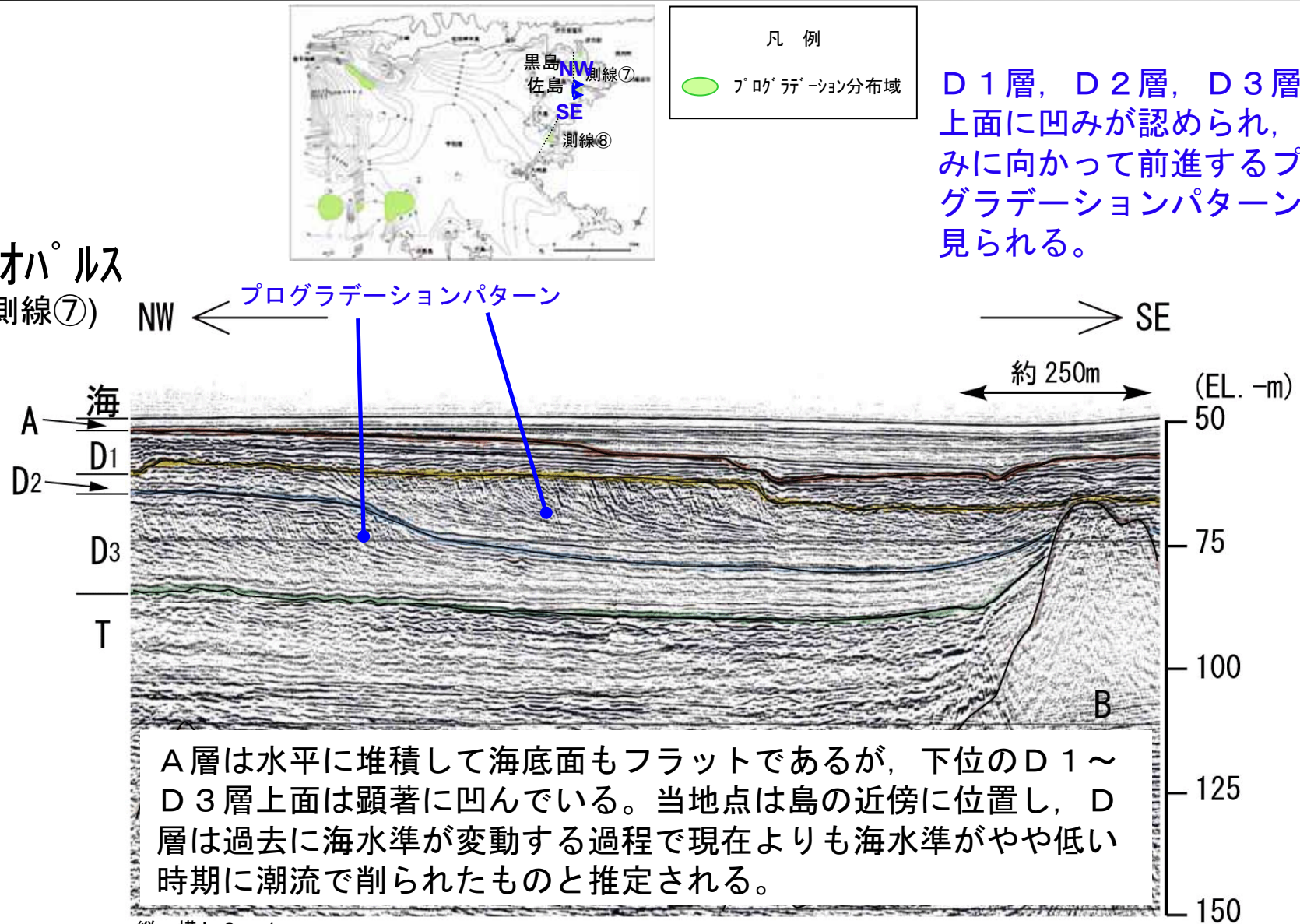
ジオパルス
(測線⑦)



縦 : 横 = 6 : 1

III 4. 13 沿岸部の海底地質断面図 (佐島東方断面拡大)

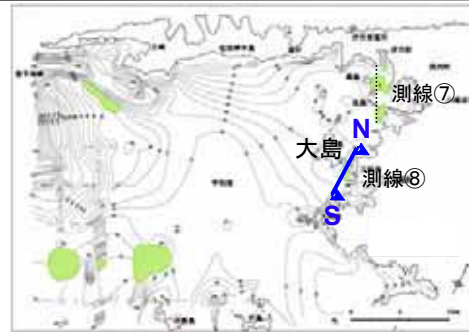
ジオハルス
(測線⑦)



D1層, D2層, D3層の上面に凹みが認められ, 凹みに向かって前進するプログラーションパターンが見られる。

III 4. 14 沿岸部の海底地質断面図 (大島東方断面)

ジオパルス
(測線⑧)

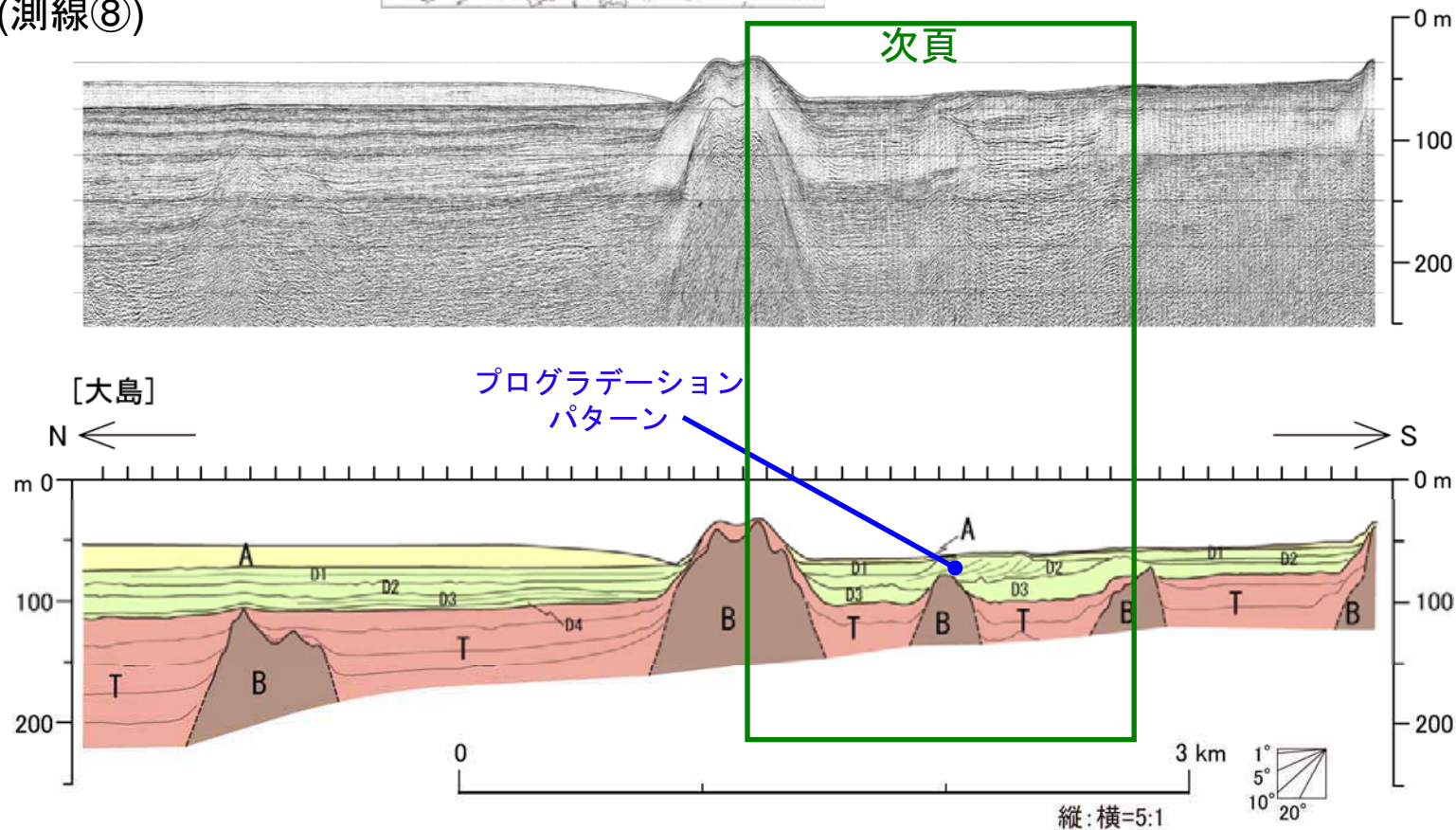


凡 例

プログラーション分布域

添付資料 図-88

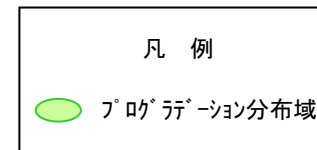
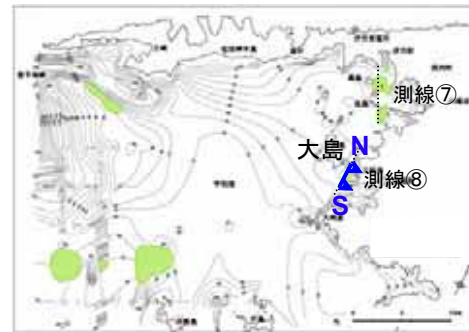
大島東方のD2層にプログラーションパターンが認められる。



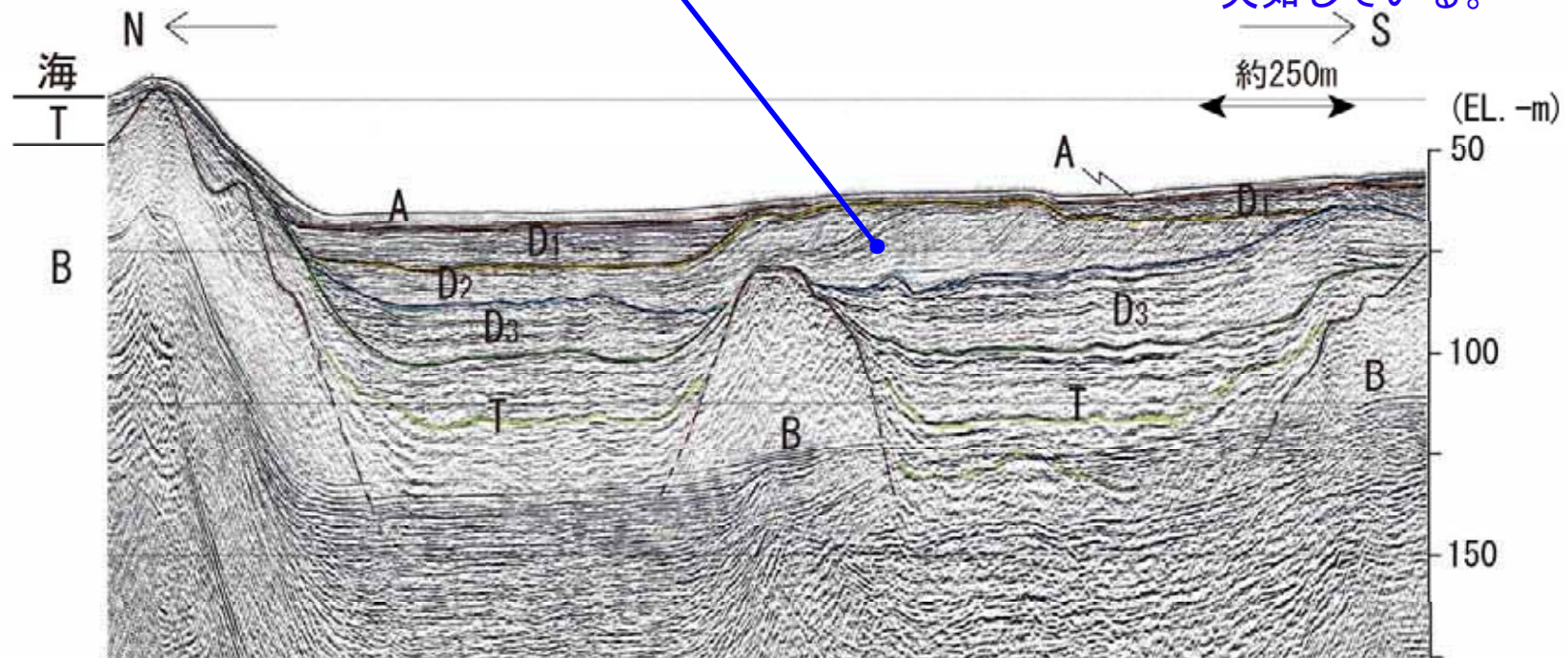
III 4. 15 沿岸部の海底地質断面図 (大島東方断面拡大)

ジオハルス
(測線⑧)

プログラデーションパターン



D 2 層, D 3 層の上面に凹みが認められ, 凹みに向かって前進するプログラデーションパターンが D 2 層に見られる。A 層は D 層を極薄く覆うが, ほとんど欠如している。



縦 : 横 = 6 : 1

III 4. 16 プログラデーションパターンによる地質時代の推定

宇和海におけるプログラデーションパターンは、海底谷、島および岩礁周辺のD層中にのみ認められる。海水準の低下を経験していない沖積層相当のA層中にプログラデーションパターンは認められない。

宇和海におけるプログラデーションパターンはいずれもD1～D3層上面の凹みに向かって前進するパターンを示す。プログラデーションパターンの分布する海底谷、島および岩礁周辺では比較的潮流が速いので、このようなD1～D3層上面の凹みは、現在のような高海水準時、あるいは、やや海水準の低下した時期に潮流で削られて形成されたと推定される。そして、海水準が大きく低下して海岸線が沖合いへ移動（海退）していく過程で、その凹みに向かって前進する地層が堆積したものと考えられる。

以上を踏まえると、宇和海におけるプログラデーションパターンの形成は、潮流が凹みを形成する高海水準時ではなく、海水準が大きく低下して海岸線が沖合いへ移動（海退）していく時期の形成と考えられる。したがって、D2層がMIS7～6への海退を受けて形成された地層、D1層が後期更新世の地層と推定される。